

八重山の教科書選定問題

沖教組・山本委員長に聞く

史実即した教材を

来年度から中学校で使用される社会科の教科書選定について、八重山地区の採択が紛糾している問題で、沖縄県教職員組合(沖教組)の山本隆司委員長は15日、「若い先生ほど教科書には忠実。それぞれ指導法は違っても、子どもに『教科書に書かれていることはうそです』と教えるようでは『厳しい』と語り、危機感を募らせた。沖縄が歩んだ歴史的背景や実情に即した教科書採択の必要性を強調した。

学校不信招く恐れも

通常、教科書の検定・採択は4年に1回のペースで行われている。だが、今年には10年に1度行われる『学習指導要領』改定の時期と重なったため、教科書の内容や分量が大幅に変わる節目の年となった。

山本委員長は「教科書会社からすれば、内容ががらりと変わる『お国変え』の時期。下手すれば、次の指導要領改定が行われるまで約10年、ほぼ同じ教科書が踏襲される可能性がある」と指摘し、本年度の教科書選定の重要性を強調した。

義務教育である小中学校の教科書は、国が民間会社から買い取り、無償で配布される。だが一度、教科書が採択されると撤回・変更することは『厳しい』という。教師にとつて、現行の教科書が変わるのは大変な問題でもある。副読本やワークブックに加え、これまで教えてきた実績や経験が全てなくなってしまうこと、教育の質の低下も懸念する。

特に八重山地区は遠隔地として、若い教師が赴任するケースも多い。「若い先生ほど教科書に忠実。忙しいから教材研究をする時間もないのに、教科書に問題がある、となれば尻込みしてしまう。うそが書かれていることを前提に教えるのは、『厳しい話だ』」 今回の八重山の選定方法について「教師不信、学校不信にもなりかねない。他の地区でも現場の教師が順位付けし、協議会が選んできた。かたくなな態度に何らかの意図を感じる。特定の教科書ありきで動いているのではないか」と危機感を募らせた。



八重山地区の教科書選定の在り方に疑問を投げる
山本隆司委員長(15日、県庁)

「沖繩戦正しく伝える教科書を」

沖教組、八重山協に要請

【八重山】八重山地区の中学校教科書選定をめぐる問題で、沖教組の山本隆司中央執行委員長が16日、石垣市教育委員会を訪れ、教科用図書八重山採択地区協議会の玉津博克会長・市教育長に対し、沖繩戦の実相をより正しく記述している

社会科学教科書を採択するよう要請した。山本委員長は県PTA連合会など7団体

による「9・29県民大会決議を実現させる会」の緊急アピールも要望した。

(22面に関連)

玉津会長は「文科省の検定を通った7社の中から真剣に選びたい」と応じた。

山本委員長は、玉津会長が実施した教員ら調査員による推薦図書の「順位付け」廃止などの制度変更

について、授業で教科書を使う教員の意見を最大限に反映できる制度に戻すこと、採択の経緯の説明責任を果たすことも要望した。

一方、山本委員長は同日市内で会見。玉津会長が、調査員の意向が拘束性を持っていたと根拠にする「採択調査員」の表記について、「変更前の協議会規約

など県の資料からは事実確認できなかった」と疑問視した。

「新しい歴史教科書をつくる会」系教科書については、「採択されれば、現場の教師は『教科書にうそが書いてある』ということを書わざるをえなくなる。子どもや保護者の学校教育や

教科書全般に対する信頼が揺らぐ」と強調。

その上で、「八重山地区だけの問題ではない。『9・29』からの県民の大運動が地に落ち、全国に恥をさらす結果になる。協議会には後世に悔いを残さないよう、賢明な判断をお願いしたい」と力を込めた。



〈201〉

野菜のナス。植物の分類で最も近い仲間はどこ？

- ① ジャガイモ
- ② キュウリ
- ③ オクラ

新聞のどこかに
こたえがあるよ

社説

八重山教科書問題

2012年度から中学校で使用される教科書の選定をめぐり、八重山が揺れている。

石垣、竹富、与那国の教育長らで構成する「教科用図書八重山採択地区協議会」の玉津博克会長（石垣市教育長）がこれまでの選定ルールを突如、変えたのが発端である。

大きな変更は2点。これまでは協議会が選定する前に、1教科につき、学校現場の複数の教師が調査員となり、教科書に順位を付けた上で協議会に報告していた。今回から順位付けをやめ、複数の教科書を推薦することになった。もう1点は、協議会で選定

する際、無記名投票とする。ただ、協議会メンバーは、3市町の教育長と教育委員ら6人、PTA代表、学識経験者の計8人だが、公表していない。極めて公職性が高い人たちである。選定後でもいいから、メンバーは匿名性に隠れるのではなく、イチ押しの人

来、過去の選定で何らかの瑕疵があり、それをただすためというのが理由であろう。しかし、玉津会長が地域に向かつて変更理由を説いて説明することはない。順位付けについて、同じ協議会役員

「愛国心」を強調する両社の歴史教科書では沖縄戦の「集団自決（強制集団死）」について日本軍の関与には触れていない。原因を米軍に求める記述がなされ、沖縄戦の実相からかけ離れている。

一連の変更は、選定の権限が、これまでの教師らの調査員から、協議会へ移行することを意味する。県教委は

選定変更の意図は何か

由をオープンにすべきだ。

協議会の構成も変え、教育現場の経験者の比重を減らし、教育委を重視している。

玉津会長の主導である。

これらは同じ離島の宮古を含む県内6教育事務所の中でも違いが突出している。ルールを改める場合は本

き、なのである。透明性に程遠く強引にルール変更したと受け取られても仕方がない。

このため社会科学教科書の選定で「新しい歴史教科書をつくる会」系の自由社、育鵬社

の選定を想定しているのではないかとこの疑念が広がる。

協議会に学校長、教育現場を経験した市町教委の指導主事

を加えるよう要請したが、3市町教育長で意見が分かれ、要請は入れられなかった。

協議会メンバーは短期間に多くの教科書に目を通さなければならなくなる。まして専門外で、熟知しているとはい

えない教科書を精査するのは、事実上不可能である。

教科書を日々使用するのは子どもたちであり、教師であることを忘れてはならない。教育現場に精通し地域性を勘案した上で、教師ら調査員の意見を最大限尊重するのは、当然ではないのか。

教師らの判断をないがしろにする選考過程の変更とそれに対する十分な説明のなさは、およそ教育とは乖離した危うさを感じざるを得ない。

協議会は今年23日、9教科ごとに採択する教科書を選定し、3市町教委に答申する。学校現場や地域の理解を得るためにも、玉津会長には選定過程の透明性を高め、説明責任を果たすよう求めたい。

八重山教員に危機感



「つくる会」系教科書の問題点について検証した八重山地区の教員ら＝16日、石垣市登野城・官公労八重山会館

「戦争向かわせる教科書」

【八重山】八重山地区の教科書問題をめぐり、沖教組は16日夜、石垣市内で教職員を対象に緊急学習会を開いた。八重山支部の上原邦夫支部長らが、従来の歴史記述を「自虐史観」とする「新しい歴史教科書をつくる会」系の中学社会科教科書の問題点を指摘。同会系教科書の採択に危機感を抱き、「歴史の真実を伝える教科書を子どもに与えよう」と呼び掛けた。参加した教職員からも「誤った価値観を教える」「戦争に導く教科書だ」と不安の声が相次いだ。（1面参照）

沖教組が緊急学習会

学習会では、上原支部長や山本隆司中央執行委員長が参加者約15人を前に、自由社、育鵬社の各歴史教科書が沖縄戦「集団自決（強制集団死）」を米軍によるものと記述していることなど問題点を指摘。教科用図書八重山採択地区協議会が教科書の選定に際し実施した制度変更の経緯についても報告。「調査員の順位付けを廃止して現場教員の意向を弱めている。両社の教科書を採択させる手法ではないか」と強

く批判した。

参加した市内中学校教諭の桃原勝さん(51)は、両社教科書について「戦前回想、全体主義的な印象がある。教員も教科書で勉強することで自分の価値観を作っていくため、誤った価値観を子どもに教えてしまうのではないか」と教師から子どもへ波及する影響の大きさを不安視した。

上原里紀子さん(52)は「いろんな視点はあっても、事実は事実。戦争を美化し、正しい史実を伝えないう教科書を子どもはそのまま信じ、大きくなってしまおう」と顔を曇らせる。

20代の男性教諭は「戦争に向かわせるような教科書だ。教育は体験することが大事だが、戦争については体験して分かって遅い。今から正しい歴史、平和について真剣に考えなければならぬ」と強調した。

2011年8月17日沖縄タイムス